「建交労とうきょう」はいつでもみなさまからの記事や写真を待っています。
（メール）tohonbukenkouro@smile.odn.ne.jp
ホームページ
http://www.kenkouro.com/

建交労 CTG とうきょう

建交労東京都本部機関紙

発行所
全日本建設交運一般労働組合東京都本部
〒135-0048
江東区門前仲町1-20-3
東京建設自労会館７階
電話 03（3820）8644(代)
fax 03（3820）8646
編集発行人　松田　隆浩
１部１５円組合費に含まれる（〒６０円）

# 建交労フェスタ in 広島　全国の仲間と交流を深めました

6月6日～8日に広島国際会議場をメイン会場として開催された建交労フェスタ。私自身、４回目となるフェスタですが、１日目は受付を担当しました（毎回、自分が担当する地域だけ、遅れて参加される組合員が多いのですが・・）その他、参加者の荷物を振り分けたり、書籍を販売したり、荷物を積んで各ホテルに運んで降ろしたりと、役目が盛りだくさん。結果、全体会には参加出なかったのが残念でしたが、それでも、フェスタのスムーズな運営の一助になっていれば幸いなことではあります。ホテルベルパルクで開催された１日目、夜の全体交流会では、久しぶりに会う仲間との挨拶も出来、盛り上がりました。

２日目、全国青年部で企画したオプショナルツアーには４０人程が参加し、午前中は原爆の碑めぐりという事で、平和公園内の原爆の遺構をガイドさんに案内して頂きました。新たに出来た施設や、今まで非公開だった場所が公開されていたりと、より被害の実相を知る機会となりました。その後、平田観光農園に移動し、ＢＢＱを楽しみ、山羊や牛、ポニーなどの動物と触れ合い、希望者は、いちご狩りを楽しんだりと、皆で楽しいひと時を過ごすことが出来ました。夜の交流会では、さらに深く交流を暖められたのではと思います。３日目の全体会のシンポジウムでは、東京から参加の鉄道上野分会伊藤さんが、会場で唯一パネラーに対し質問をされていました。返答者役で登壇した廣木さんへの質問コーナーも時間をオーバーすることなく無事に終わり、私もホッとしました。最後に足立中央執行委員長の団結ガンバローで幕を閉じ、参加者それぞれが楽しい思い出を胸に帰路に着きました。

【全国青年部　副部長　秋山　哉保】

全国青年部のオプショナルツアーは約40名が参加しました

東京都本部からは13名が参加しました
夕食交流会はホテルメルパルク広島で開催

## 7.20全国青年部・反核平和キャンペーン

建交労全国青年部は7月20日（土）岡山県労働者学習協会の長久啓太事務局長を講師に反核平和キャンペーン学習会を開催しました。長久さんは「戦争は人を人として扱わない。２度と繰り返してはならない。人間の尊厳を尊重する労働組合が平和活動をする意義は大きい。」と強調しました。また長崎県本部の内田知也さんが「被爆８０年平和を語り継ぐために」と題してノーベル平和賞を受賞された日本被団協代表委員田中重光さんとの懇談の様子を報告されました。「田中さんが『今年は被爆８０年だが９０年目の節目には自分はいないだろう。』と語られていたのが印象的だった。いかに次の世代に伝えていくかが課題と感じた。」と話されました。

東京地評青年協や全国の建交労の仲間が参加しました

## 故遠藤晃書記長を偲ぶ会　しめやかに　6月21日(土)

6月21日（土）、故遠藤晃さん（享年４６歳）偲ぶ会を、全労連会館にて執り行いました。首都圏運輸集団交渉団の会社役員のみなさまをはじめ、故人と親交のあった友誼団体のみなさまなど多くの方々にご参列いただきました。お別れの言葉を首都圏運輸労使協議会成瀬大輔会長、東京法律事務所笹山尚人弁護士、東京地方労働組合評議会矢吹義則議長、建交労神田支部上村誠執行委員長に、追悼の演奏を大熊啓さんにいただきました。ありがとうございました。

ご参列いただきましたみなさま、お別れのメッセージをお寄せいただきましたみなさま、御礼申し上げます。改めて遠藤晃書記長のご冥福を心よりお祈りいたします。

【　実行委員一同　】

ご参列ならびにメッセージをお寄せいただきありがとうございました

## 「消費税減税・インボイス制度廃止」を求めて建設アクション財務省要請

全建総連加盟の土建組合や、建交労、国交労組など、たたかう建設の労働組合で構成する建設アクション実行委員会は６月３０日（水）財務省要請行動を実施しました。

要請行動に先立って、元静岡大学教授・税理士の湖東京至（こととうきょうじ）氏による「消費税は廃止すべき最悪の不公平税制」と題した講演と、インボイス制度を考えるフリーランスの会小泉なつみさんによる「１万人のインボイス実態調査」の報告がありました。物価高騰に賃上げが追い付かず、税金を払うことも厳しいと訴える組合員の声に財務省はどう応えるのか、ガソリン税などの暫定税率の廃止、インボイス制度の廃止、消費税率の一律５％以下への引き下げを求めました。財務省は「暫定ガソリン税について与野党含め廃止に合意していると認識しているが１・５兆円の減税になるため財源の課題がある。インボイス制度の廃止は考えていない。消費税は少子高齢化の中で社会保障の財源として重要な位置づけのため引き下げられない。」と回答しました。組合の各代表は「財源は富裕層など、儲かっているところにある。賃金は上がらず社会保障はげられる一方だ。これではまともに生活してけない。」と切実な実状を訴えました。【笹原　和樹】

衆議院第一会館地下会議室で開催されました

## 6・26東京地評・東京春闘共闘 官民共同行動　国交省要請

6月26日（木）東京地評・東京春闘共闘会議は、トラックやバス、ハイヤー・タクシー業界で働く労働者の「長時間労働是正等」を求めて、国交省要請を開催し、建交労東京都本部からトラックやバスの仲間が参加しました。トラックドライバーの有効求人倍率は２・８５倍と全職種の１・２１倍を大きく上回り、年間の労働時間も全職種と比較して４００～５００時間程度長く、人手不足の要因は労働環境の厳しさに他なりません。改正された改善基準告示の再検討や、１運行の上限１４４時間の短縮、高速道路における大型トラックの駐車スペースが不足していることについて立体化や予約システムの活用などを要求しました。国交省は「１運行の上限については検討していないが、ドライバーの待遇改善は極めて重要と認識している。トラックＧメンの増員などで指導徹底していきたい。駐車スペースの立体化について検討している。空き情報についてHP等で可視化していきたい。」などと回答しました。また、バス業界について、安全運行確保のため、長距離や夜間以外の交替運転者の定義を明確にすることや、夏季の乗務における体調管理や把握、交替要員の確保についての指導を求めました。国交省は「定義について回答を持ち帰らせて欲しい。朝の点呼の際体調が悪いと言い出しにくい事業所の体質があることは理解しました。」などと回答しています。

東京都本部より松田執行委員長、石塚副委員長
佐々木常任執行委員、笹原執行委員が参加しました

## 第10期建交労東京学校 第４回公契約運動・最賃闘争

「春闘の起源と２５春闘を振り返り、全国一律最低賃金１５００円以上、めざせ１７００円のたたかいと公契約条例・特定（産業別）最賃確立の意義と重要性について考える」と題し、講師は、若いころ大企業で解雇され撤回争議を展開し、その後新宿区労連等を育ててきたオルガナイザー屋代眞さんです。失われた４０年の日本、賃上げ春闘が機能しなくなって久しく、新自由主義の政府、財界によって、労働組合が分断され弱体化し、非正規雇用が４割にもなりました。賃金は生計費を下回り、低賃金と物価高騰で労働者は生活不安で窒息し、どの世代の誰もが生きづらい、そんな現状を労働組合としてどう打開するのか、そんな悩みに応える講義でした。屋代さんによれば「賃金の土台には最低賃金があり、それを全国一律にする労働組合の運動が必要とされ、さらに公契約条例制定推進を東京都や政府に訴え、この条例の賃金水準を地域の民間企業にも拡張し、そして特定（＝産業別）最低賃金を実現する」というものでした。全ての労働者に賃上げが波及する全国最賃・公契約・産業別最賃の確立を基準に、全ての労働者が団結できる労働組合運動が必要とされる、という納得のゆく講義でした。紙幅では表せない素晴らしい講義でした。是非レジュメご一読願います。【東部支部書記長　畠中　博貴】

講師　屋代　眞さん
東京地評副議長・新宿区労連副議長

## ～7月21日(月)建設首都圏共闘会議30周年レセプション～

国交労組や水資労、建設関連労連、４土建（東京、神奈川、埼玉、千葉）、建交労関地協などで構成する建設首都圏共闘会議は、結成から３０年を記念して、喜山倶楽部にてレセプションを開催しました。松本議長（東京土建）や古澤副議長（国交労組）が挨拶され、結成以来一貫して建設業界に従事する労働者の労働条件向上のため官・民共同で運動を進めてきたことを強調しました。上間事務局長は「結成３０年での第三次ロッパー交渉や福島現地調査、中央省庁交渉や関東地方整備局交渉、専門工事業団体懇談など継続的に取り組むことを確認し、新たな３０年に向けての団結を固めました。【東京建設・関連部会　事務局長　笹原　和樹】

全体で約200名が集いました

## 組合掲示板

■８月　７日（木）～９日（土）
原水禁世界大会／長崎

■８月３０日（土）～３１日（日）
第２７回建交労中央定期大会／群馬県ホテル磯部ガーデン

■９月１４日（日）１３時～第２８回都本部定期大会／東京トラック健保会館（半蔵門駅）